十勝博、華やかに開幕

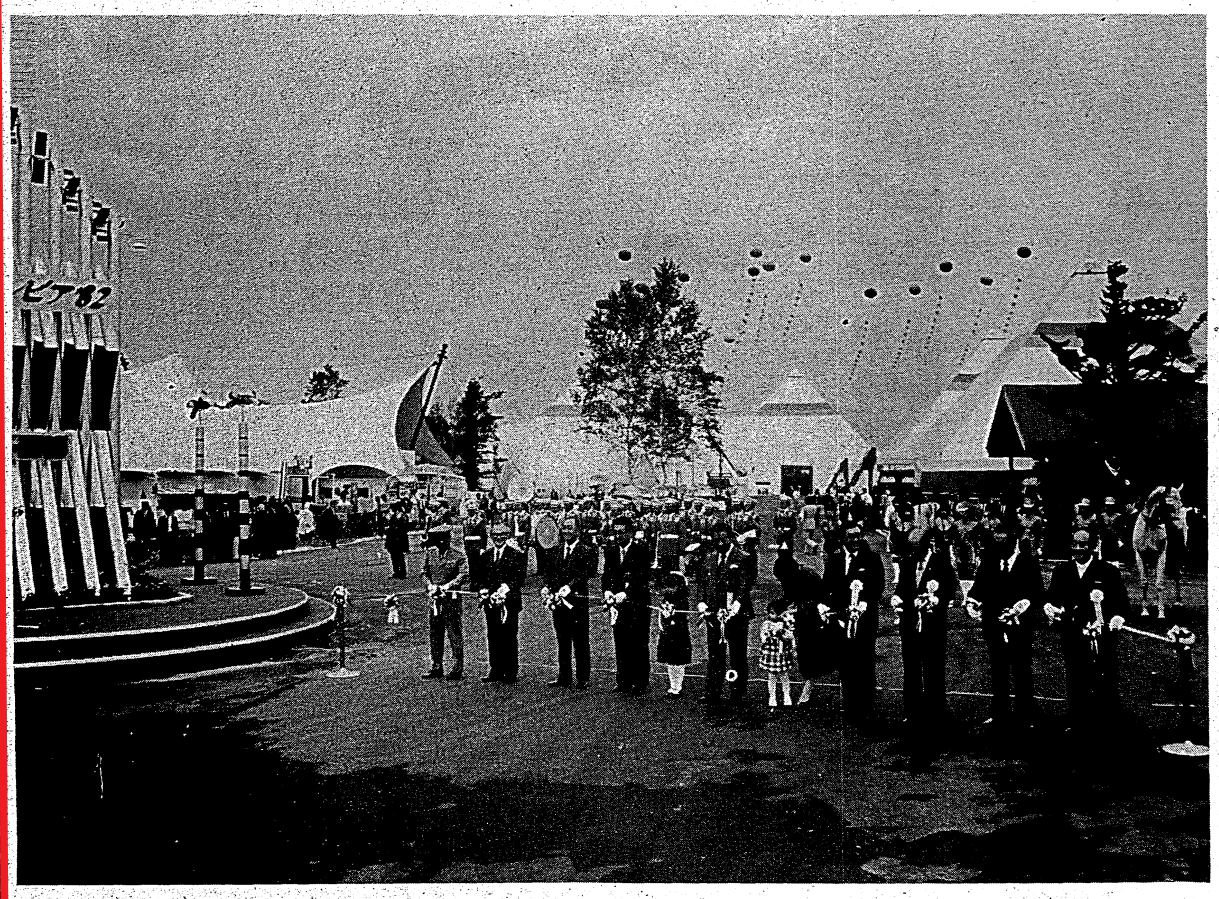
十勝毎日新聞
発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
編集☎21121広告事業☎2323
総務・経理・販売☎22222
夜間☎2125
振替小樽18328番
©1982十勝毎日新聞社

号外

帯広開基百年・メーンエベント

中川大臣らテープカット

林実行委員長 力強く開会宣言



午前九時、テープカットで華々しくオープンした十勝博

帯広市の開基百年協賛事業のメーン、グリンピア'82・十勝博（北方圏農林博覧会）が十七日午前九時、中川一郎科学技術庁長官（博覧会実行委員会名誉総裁）、永沢悟北海道副知事（同副総裁）らのテープカットで華々しくオープンした。会場の帯広市南町、旧帯広空港跡地の二十㌶には各種パビリオン、施設が建ち並び活気がいっぱい。ファンファーレが鳴り渡り、ゲートが開けられると待ちかねていた見物客がどっと会場に足を踏み入れ、午前中からかなりのにぎわいをみせた。

この日、会場では午前八時二十分、映像ドーム裏手からバトントワラーズを先頭に自衛隊音楽隊が正門ゲート近くのシンボルゾーンに向けて入場行進を開始。

約千人の参列者を前にしてこのあと林正巳北方圏農林博覧会実行委員長（十勝毎日新聞社副社長）が「ただ今より北方圏農林博覧会の開会を宣します」と力強く開会を宣言した。

続いて、主催者を代表して田本憲吾総裁（帯広市長）が「開基百年の輝かしい年に開く博覧会であり、ぜひとも成功させたい」とあいさつした。

次いで中川科学技術庁長官、永沢悟副知事の二人が祝辞を述べたあと、音楽隊の小太鼓が鳴り響く中、帯広畜産大学の馬術部による騎馬隊が入場。博覧会旗、帯広市旗、帯広商工会議所旗、十勝毎日新聞社旗をそれぞれ騎手が持ち、ひづめを鳴らしてシンボルタワーを一周した。

そして、会場近くの帯広の森上空にカラフルな熱気球がポッカリと上がり、ムードが盛り上がってきたところで、いよいよテープカット。中川長官、永沢副知事、田本市長、木ノ内国明帯広市議会議長、宮本義雄帯広商工会議所会頭、西川義正帯広畜産大学学長、太田寛一前全国農業協同組合連合会会長、林克己十勝毎日新聞社社長、小森昭治陸上自衛隊第五師団長、それに主催者側がグリンピアにちなんで募集した「緑」という名前の子供、岩崎緑ちゃん（三つ）＝帯広＝が紅白のテープにハサミを入れ、ファンファーレが流れ、花火が打ち上げられた。さらにくす玉が割れ、風船が放され、二百羽のハトが大空に向けて飛び立った。時に午前九時きっかり。このハトのうち一羽は、遠く根室市ノサップ岬の北方館長に博覧会のメッセージを運ぶ役目だ。

同九時三分、ゲートがオープン。大勢の見物客がどっと会場へ。開会式の出席者はグリンピアガールの案内で各パビリオンをさっそく見て回った。また、「緑の21世紀館」内の科学万博PRコーナーでは、中川長官、田本市長らが出席してテープカット、さらに新幹線「ひかり号」前でも副島治釧鉄局長、吉田緑ちゃん（六つ）＝帯広＝がテープカットをして〝門出〟を告げた。

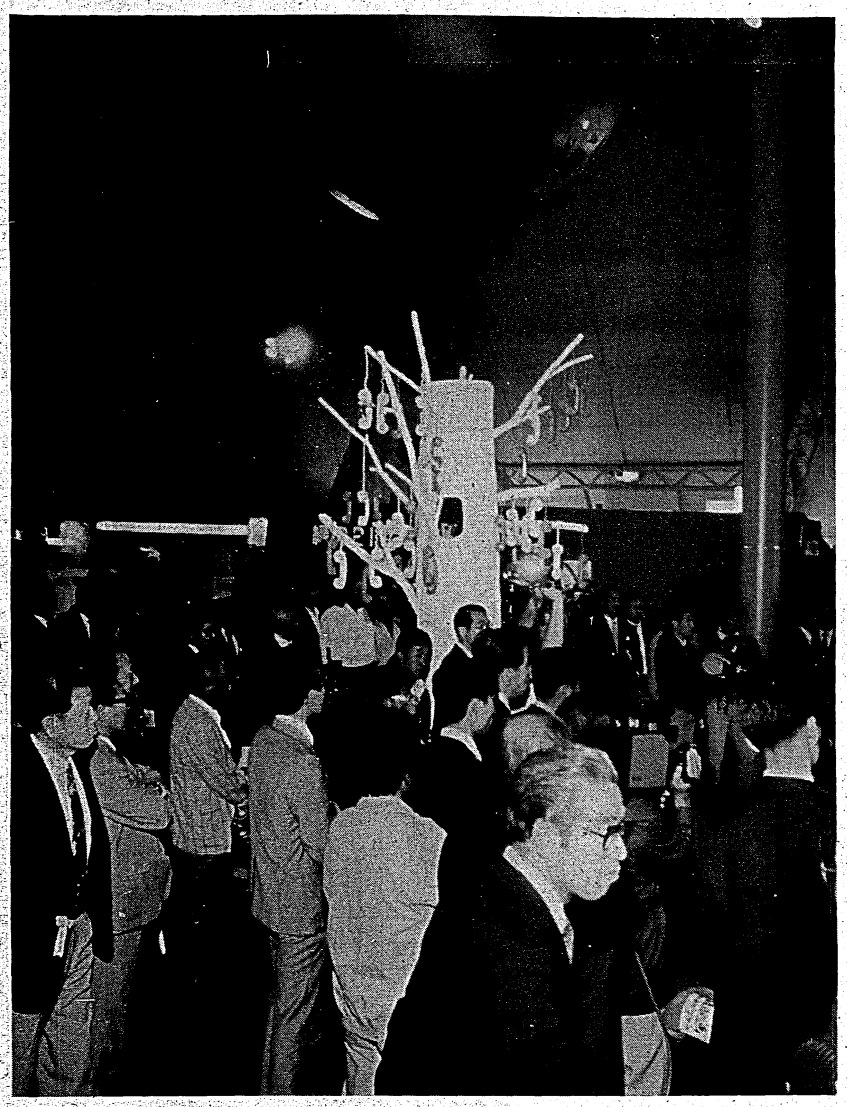
全国農機展も開幕

十勝博会場では、この日から「第二十五回全国農業機械展」も開幕した。四㌶の広い会場に六十三社の農機具メーカーが参加、千五百台の畑作、酪農新鋭機械がズラリ。実際に機械を動かしての実演も行われ、会場は活気がいっぱいだ。十勝は農業機械のメッカといわれるだけに、参加各社とも力を入れており、全国各地から農業関係者が多数訪れそう。同機械展は二十五日までの九日間行われる。

同機械展は、十勝地区農協組合長会、ホクレン帯広支所、十勝農業機械化協議会の主催。「豊かな日本農業へのアプローチ」をテーマにしている。十勝の基幹産業、農業のにない手、トラクター、ハーベスターなどがどっかりと腰を据え、スケールいっぱいの展示会となった。

初日から賑う

パビリオン、遊具に歓声


招待客、見物客などで早くもにぎわう会場

十勝博は約二十億円の事業費を投入してパビリオン、遊具などの施設造りを行った。パビリオンは、メーンの「緑の21世紀館」「北の大自然館」「北のフロンティア館」「国際バザール」「映像ドーム」の五つ。主催者側の展示に加えて東芝、ソニー、日本電気、サントリーなど我が国のトップ企業四十数社がユニークさいっぱいの企業展示をしている。

このうち「緑の21世紀館」は二千四百平方㍍のスペース。十勝をはじめ日本農業がこれからどう変わるか、バイオテクノロジー（生物工学）など先進技術とのかかわりなどを分かりやすく説明している。「月の石」や「宇宙ロケット」も登場し、科学を勉強するにもってこい、といえそうだ。「北の大自然館」は、林業を中心にしたパビリオン。根のついた大きなエゾマツが中心にデンと立っている。さらに「北のフロンティア館」は北方農業の歴史を紹介している。「映像ドーム」は、アメリカ・ノックスビルで開かれている国際エネルギー博に日本政府が出展している画像をそっくり見ることが出来る。

グリンピアランド（大遊園地）も魅力がいっぱい。四十人乗りで海賊船・バイキングの異名を持つ「グレートポセイドン」はスリル満点。回りながら光線銃でネライ撃ちできる「エアファイター」、のんびりペダルを踏む「サイクルモノレール」など、興味たっぷりの遊具が並んでいる。新幹線「ひかり号」も登場、すっかり化粧直しされて今にも動き出しそう。「緑と太陽のステージ」では毎日、盛りだくさんの行事が。「ふれあい牧場」では、ポニー、ウサギ、カメなどが放し飼いされており、子供たちが動物との〝ふれ合い〟を楽しむことが出来る。

初日のこの日は、博覧会のオープンに胸をわくわくさせた見物客が午前中から次々と入場。パビリオンの中に入って、マイコンを利用した牛の飼育、世界一大きなつり下げ型木琴、コンピューター温室、永久凍土、ナウマン象復元骨格―などに目を見張っていた。また、大遊具「グレート・ポセイドン」でたっぷりスリルを味わったり、「映像ドーム」の迫力に酔いしれる人も多かった。

博覧会の会期は九月五日までの五十一日間。主催者側では期間中、五十万人の見物客を見込んでいる。

9月5日まで51日間